

H27-B-1 深度44.53~44.83m 最新活動面の位置 (No.最-21) を変更

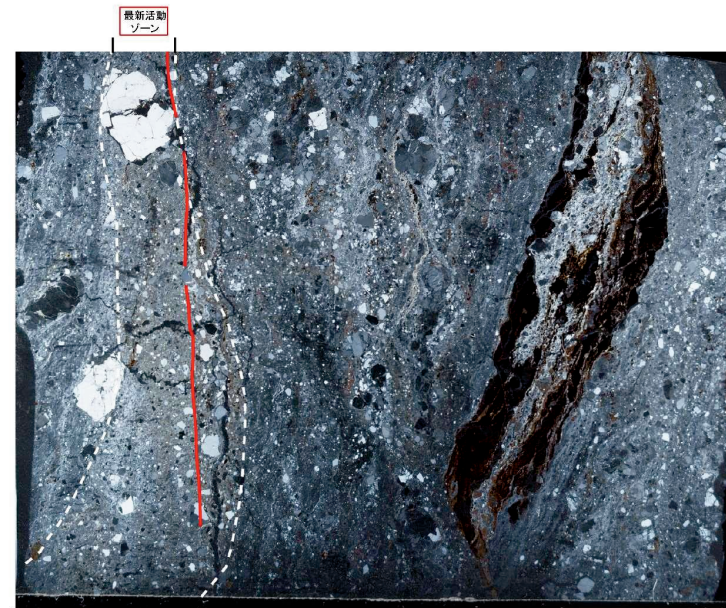
H27-B-1 深度44.53~44.83m 薄片観察 最新活動面の認定

- ・深度44.68mにおける断層面β沿いの最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面Aが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは直線性・連続性に富み、最も細粒化が進んだゾーンを伴う。
- ・Y面Aのみが認められることから、Y面Aを最新活動面と認定した。



直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真

1cm

Z(E)
X(30° L)

- 凡例
- Y面A
 - - - - 最新活動ゾーン※
- ※: 写真上は白色又は黒色で記載

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、割れ目や不明瞭箇所では記載していない

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

- ・最新活動面を細粒部の上端に変更（No.最-22）
（深度差1cm以下のため，深度標記は変更なし）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

- a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-22）
- b ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-22）

H27-B-1 深度45.36~45.39m 最新活動面の位置 (No.最-22) を変更

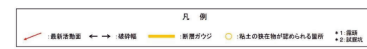
従前

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-188頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯
性状一覧表(16/19)

断面番号	断面位置	掘削深度	掘削方法	掘削機	掘削速度	掘削方向	掘削高さ	掘削時間	掘削時の状況				掘削後の状況	掘削位置
									掘削開始	掘削終了	掘削開始	掘削終了		
1	25.54	24.30	2027	400	5.0	有	無	無	-	-	20L	掘削	24	
2	42.41	42.49	1020	300	6.8	有	有	有	1.5	掘削	10L	掘削	42	
3	44.34	44.51	1015	300	20.0	有	有	有	0.2	掘削	0	掘削	44	
4	44.52	44.63	502	300	10.0	有	有	有	-	-	20L	掘削	44	
5	45.36	45.39	1020	700	1.0	有	有	有	-	-	40L	掘削	45	
6	46.12	46.17	1016	300	4.1	有	有	有	-	-	20L	掘削	46	
7	47.40	47.31	1021	400	8.8	有	有	有	0.2	掘削	30L	掘削	47	



【破砕帯】
粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯、
層状粘土状破砕帯、層状砂状破砕帯、層状角礫状破砕帯
の存在を確認し、破砕帯の定形破砕帯から異の部に発生した。
【平滑さ】
※ 滑らかな表面が連続的なもので
※ 平滑：最新活動面が角礫するもの

参考2-188

見直し後

No.最-22
(赤矢印位置)

断面番号	断面位置	掘削深度	掘削方法	掘削機	掘削速度	掘削方向	掘削高さ	掘削時間	掘削時の状況				掘削後の状況	掘削位置
									掘削開始	掘削終了	掘削開始	掘削終了		
H27-B-1 (破砕帯)	1	24.34	24.30	1027	400	5.0	有	無	無	-	-	20L	掘削	24
H27-B-1 (破砕帯)	2	42.41	42.49	1020	300	6.8	有	有	有	1.5	掘削	10L	掘削	42
H27-B-1 (破砕帯)	3	44.34	44.51	1015	300	20.0	有	有	有	0.2	掘削	0	掘削	44
H27-B-1 (破砕帯)	4	44.52	44.63	502	300	10.0	有	有	有	-	-	20L	掘削	44
H27-B-1 (破砕帯)	5	45.36	45.39	1020	700	1.0	有	有	有	-	-	40L	掘削	45
H27-B-1 (破砕帯)	6	46.12	46.17	1016	300	4.1	有	有	有	-	-	20L	掘削	46
H27-B-1 (破砕帯)	7	47.40	47.31	1021	400	8.8	有	有	有	0.2	掘削	30L	掘削	47

※1 断層区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
※2 斜めボウリングの場合は、計測値を修正した値を記載
※3 連続しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
(上記以外)：データを取得していない箇所

凡例
最新活動面 ← → : 破砕帯
カッターが付いていない区間はカッターサイトを示す
掘削ガワジ : 断層角礫

第7.4.4.4.13項 (1) 破砕帯性状一覧 (H27-B-1)

H27-B-1 深度45.36~45.39m 最新活動面の位置 (No.最-22) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-232頁

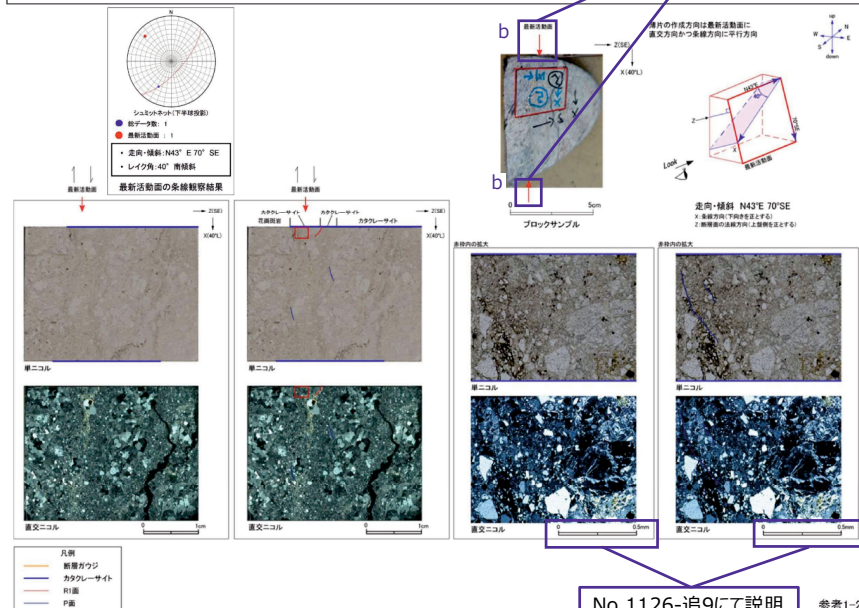
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.最-22

(赤矢印位置)

非モデル化破砕部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度45.39m)

H27-B-1のボーリングコア(深度45.39m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。



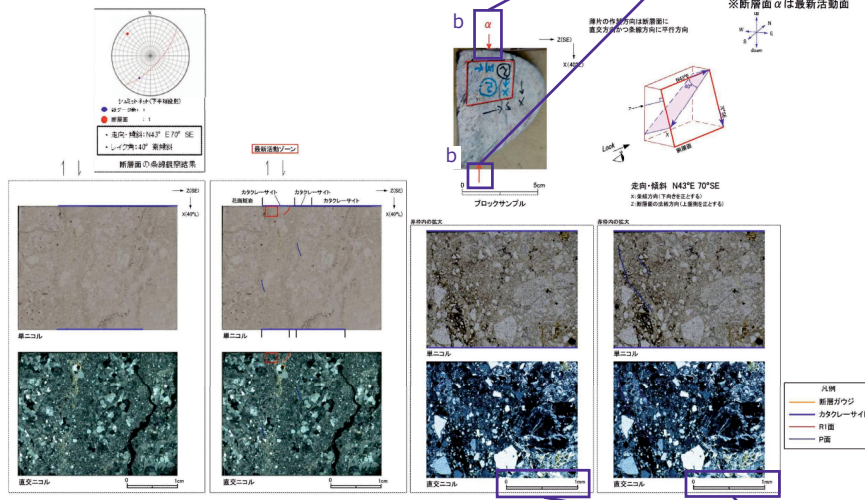
No.1126-追9にて説明

参考1-232

No.最-22

(赤矢印位置)

H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 ① (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 ② (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状部は局部的である。
 ③ (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 ④ (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 ⑤ (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 ⑥ (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



No.1126-追9にて説明

第7.4.4.265図(3) 破砕部性状 H27-B-1 深度45.36~45.39m (変位センス、薄片観察による断層岩区分(1/3))

H27-B-1 深度45.36~45.39m 最新活動面の位置 (No.最-22) を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると、H27-B-1 深度45.36~45.39m の破碎部における最新活動面は45.39mの細粒部の上端の断層面であるため変更した。

H27-B-1 深度45.36~45.39m ボーリングコア観察 断層面の認定

- ボーリングコア観察において、深度45.39mに断層面 α 及び断層面 β が認められる。
- 断層面 α は、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が認められるが全体として直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。
- 断層面 β は、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が認められるが全体として直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。

コア写真

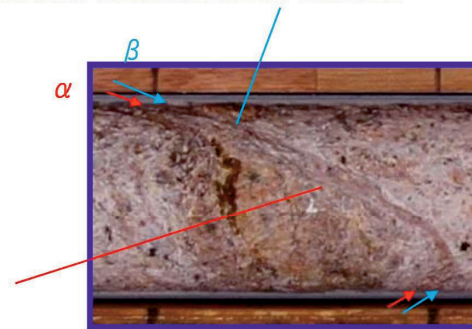


凡例
 ← → 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

ボーリング柱状図

●45.36~45.39m: 破碎部
 45.36~45.39m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい橙色を呈する。幅5~10mm。
 45.39m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2)
 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分岐・収れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒5~10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。

細粒部を伴い湾曲及び凹凸が認められ、連続性に富む



細粒部を伴い湾曲及び凹凸が認められ、連続性に富む

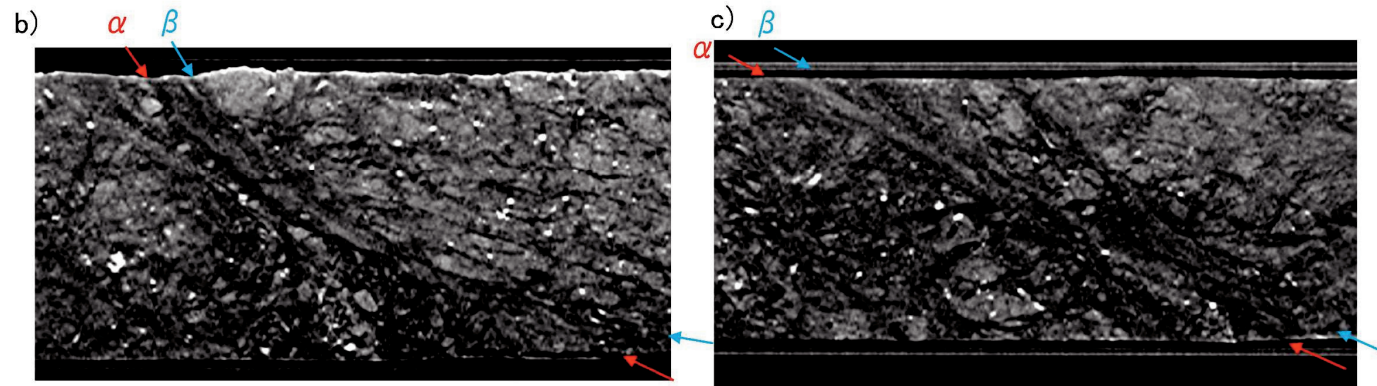
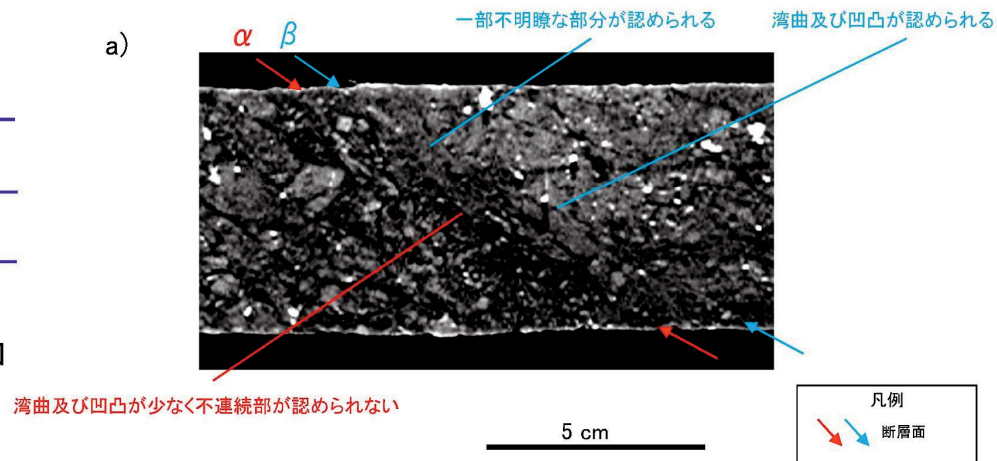
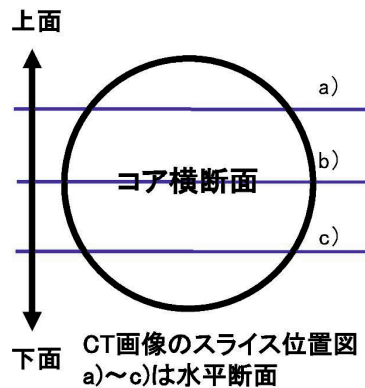
凡例
 断層面

H27-B-1 深度45.36~45.39m 最新活動面の位置 (No.最-22) を変更

H27-B-1 深度45.36~45.39m CT画像観察 断層面の認定

- CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 α 、断層面 β が認められる。
- 断層面 α は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が少なく不連続部が認められず、直線性・連続性に富む。
- 断層面 β は一部不明瞭な部分が認められるが、三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ、直線性・連続性にやや乏しい。

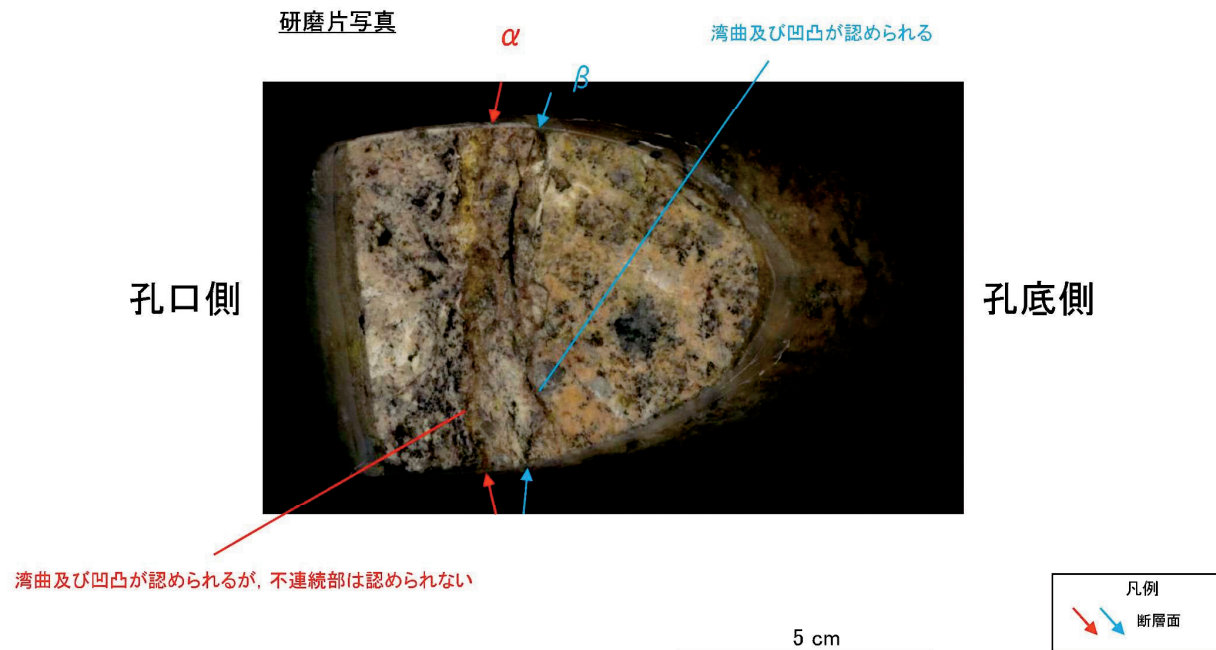
ボーリングコアCT画像



H27-B-1 深度45.36~45.39m 最新活動面の位置 (No.最-22) を変更

H27-B-1 深度45.36~45.39m 研磨片観察 断層面の認定

- ・研磨片観察において、CT画像観察の結果と同様に断層面 α 、断層面 β が認められる。
- ・断層面 α は、他の構造に切られておらず、細粒部を伴い湾曲及び凹凸が認められるが、不連続部は認められず、直線性・連続性に富む。
- ・断層面 β は、他の構造に切られておらず、細粒部を伴い湾曲及び凹凸が相対的に多く認められ、直線性、連続性に乏しい。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線性に富む深度45.39mの断層面 α を検討対象の断層面とした。



H27-B-1 深度45.36~45.39m 最新活動面の位置 (No.最-22) を変更

H27-B-1 深度45.36~45.39m 薄片観察 分帯

- ・①のゾーンは、健岩部である。
 - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・④のゾーンは、粘土鉱物の量は少ないが②及び③のゾーンより多い。粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。②より岩片が小さい。
 - ・⑤のゾーンは、健岩部である。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ④のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。

